

欺瞞的4・7協議会決定を白紙撤回せよ！

『大学改革』について『下』に対するわれわれの批判

『全学共闘会議(準)』

大学当局は、4月7日の協議会において、「大学問題特別委員会」の管掌案に基づいて、大学改革に関する基本的態度を決定し、8日に「大学改革委員会」を立ち上げて、「大学改革問題について」(以下、「改革案」と略す)という文書を発表し、その内容は、すでにわれわれが白紙撤回を要求している「医学部問題について」(以下、「2・20」の提言)直しにすぎない。その詳細は批判についてあとに譲るとしても、それはわれわれが市大闘争の過程において主張してきたものとは根本的に相容れないものである。したがって、われわれは、強くその白紙撤回を要求する。

まず最初に、われわれは、大学改革に対する大学当局の基本的な姿勢の悪さを、怒りをこめて糾弾する。というのは、オ一に大学当局は、市大闘争の渦中において、闘争の正統を目的とした大学改革を推進するに、**「大学問題特別委員会」とか、「大学改革準備委員会」へも、とも将来、職員・学生の代表者を加えること、**しているが、どこか隠然としているが、真の問題提起者である学生、なにかんなく全共闘(準)に結集するわれわれの周知しないところで、それらを運営している。われわれは、そのよう大学当局の態度を強硬しなければならぬ。オ二に、大学当局は、われわれの提起した問題の核心に正面から答えることなしに、中心的な論点をばぐら、**市大闘争を鎮撫すべく改革案という名の収拾案を提案している。**オ三に、大学当局は、大衆団交を一貫して回避しながら、「**広聴委員会**」を立ち上げて一方的に学主大衆に旧守的イデオロギーを喧伝、注釈してはばからない。そのような大学当局の一切の態度は、容認されなければならない。大学当局がこのような姿勢を転換しなければならぬ。市大闘争の解決にはほど遠いといわなければならない。

さて、われわれは、改革案を批判する点は、大別してつぎの三点である。すなわち、それはつぎのように述べている。

① 大学改革の問題点を、もっぱら「大学における各種成員が、大学においてどのような地位を占め、また大学の管理、運営にどのような参加をするか」という点にある。

として、論点を歪曲している。

② 「学部の全権成員が、それぞれに固有の立場から固有の権利と責任をもって、学部の管理、運営に参加する」という制度の確立を提案しながら、教員と学主・大学院生・職員その他の諸構成を峻別して、「参加」の権利を差別している。さらに、後者の「その間に」へ参加の権利を「事前合議制」と「一回限りの異議申し立て」に限定している。

③ 市大闘争において真に問題提起をするために、あえて封鎖でもってそれを行なっているわれわれ全共闘(準)を、「大学改革の案行を遅延せしめるばかりでなく、外部からの大学自治に対する干渉をまねく」と中傷している。それにもかかわらず、大学当局は、市大闘争の解決のための論議すら提示しないのみならず、逆意を押しつけている態度を批判する意図が伺える。

④ 大学改革の問題点 大学当局は、それなりに全学共闘闘争の積極を行なっているつもりらしい。すなわち「大学改革の背景と原因は、主わめてなく、かつ深いもの」と。それらの具体的な社会科学的な分析を一切放棄しているのだ。合理的な行を売り込むにすぎない現代の大学を支配する「和性」の程度を示し、われわれを限りなく失望させる。そのような「和性」にもかかわらず、遂大にも大学改革の「とりわけ緊急な問題」は、大学における各種成員が、大学においてどのような地位を占め、また大学の管理、運営にどのような参加をするかという点にある」と指摘している。さらに、「二の問題の解決があれば、あてがも「大学が真に大学自治の精神を主として真理探求の場としての姿勢を堅持し、教育、研究のうちに成果をあげよう」との二点を理想をふりまく。

すくなくとも、市大闘争を含む全学共闘闘争が提起した問題は、**「参加」というような技術的な制度いじりでは断じてなく、それはすべて、**「大学」へ「学」へ「学」主へ「研究」のありか、いかにすればそれらの根本理念を問うたのである。**すなわち、言葉の美しい「大学の自治」へ「真理探求」の真意が、現在どのようなものになっているのかを自己暴露しよう。われわれは問うているのだ。それをわれわれは、**「大協自主規制路線」にのって四家、産学協同路線にのって資本に屈服している現行大学を定めて「帝国主義大学」と呼び、その解決闘争を宣言しているのだ。****

ところで、大学当局は、無知にか、悪意にか、われわれの現行大学の根本的変革の叫びを、主権的な「参加」という制度いじりに、論議をすり替えて、われわれの肉體提起を貶めようとしている。われわれは、論議のすり替えという権力者の常套論理に誤解化されはしない。「参加」の向後など、大学の根本理念が確定され、真剣にそれを実行に移されるならば、おのずと解決しようものだ。それ